



目次

- 1. 改訂情報
- 2. はじめに
 - 2.1. IM-FormaDesigner for Accel Platformへ移行するもの
 - 2.2. 移行対象機能
 - 2.3. ライセンスについて
- 3. 前提条件
 - 3.1. バージョン
 - 3.2. データベース
 - 3.3. OS
 - 3.4. タイムゾーン
 - 3.5. ユーザモジュール
 - 3.6. その他の機能の前提条件
 - 3.6.1. 共通
 - 3.6.2. メニュー
- 4. 制限事項
- 5. 移行
 - 5.1. 事前作業
 - 5.2. ショートカットURL機能について
 - 5.2.1. 更新画面に対するショートカットURL
 - 5.2.2. 参照画面に対するショートカットURL
 - 5.3. 移行手順
 - 5.3.1. IM-FormaDesigner version 7.2 から情報のエクスポート
 - 5.3.2. データベースのコピー
 - 5.3.3. IM-Jugglingによるwarの作成
 - 5.3.4. intra-mart Accel PlatformへのStorageの移行
 - 5.3.5. システム管理者 によるテナント初期設定
 - 5.3.6. テナント初期設定後の各種メンテナンス
- 6. 付録
 - 6.1. IM-FormaDesigner version 7.2とIM-FormaDesigner for Accel Platformの画面アイテム比較一覧
 - 6.1.1. 変更点、注意事項
 - 6.2. IM-FormaDesignerversion 7.2から IM-FormaDesigner for Accel Platformへの移行時のよくあるご質問（FAQ）

改訂情報

変更年月日	変更内容
2012-10-02	初版
2012-11-01	第2版 テナント環境セットアップ後のIM-FormaDesigner 関連のデータ移行の手順を変更
2013-08-20	第3版 下記を変更しました。 「IM-FormaDesigner version 7.2 から情報のエクスポート」
2014-01-01	第4版 下記を追加しました。 「ショートカットURL機能について」
2015-08-01	第5版 下記を追加しました。 「テナント初期設定後の各種メンテナンス」に、「スマートフォンを利用する場合」を追加
2016-04-01	第6版 下記を変更しました。 「IM-jugglingによるwarの作成」を修正
2016-12-01	第7版 下記を変更しました。 「事前作業」からDB2に関する記述を削除
2017-08-01	第8版 下記を変更しました。 「データソース定義（クエリ）のインポート」に IM-BIS 導入環境に移行時の説明を追加しました。
2018-04-01	第9版 下記を変更しました。 「IM-FormaDesigner version 7.2とIM-FormaDesigner for Accel Platformの画面アイテム比較一覧」にファイルアップロードアイテムのプロパティ項目「画像プレビュー表示」の説明を追加しました。

はじめに

本書では IM-FormaDesigner version 7.2 から IM-FormaDesigner for Accel Platform への移行手順について説明します。

IM-FormaDesigner for Accel Platformへ移行するもの

移行の対象は以下の通りです。

- データベース

アプリケーション定義情報、フォーム定義情報をはじめとするIM-FormaDesigner for Accel Platformの管理情報は移行ツールで移行できます。

アプリケーションから登録したユーザテーブル（ヘッダーテーブル・明細テーブル）も、移行対象です。

- ストレージ

Storage Serviceのファイルは、移行手順で示す場所に、手作業で移動してください。

IM-FormaDesigner for Accel Platform では、画面アイテム「ファイルアップロード」で登録したファイルが対象です。

- IM-Workflow など他の機能の移行については、「[移行ガイド](#)」を参照してください。

- 設定ファイル（forma-config.xml）

IM-FormaDesigner version 7.2.2、version 7.2.3以降のforma.ini、forma-config.xmlに行っている編集内容を IM-FormaDesigner for Accel Platform のforma-config.xmlに転記します。

- ユーザプログラム

移行向けの対応方法に従い、修正を行ってください。

移行対象機能

移行対象機能は以下の通りです。

- アプリケーション情報（アプリケーション履歴、フォーム、アプリケーションの操作権限設定など）
- 採番ルール定義情報（移行元の環境がIM-FormaDesigner version 7.2.3以降の場合）
- WF連携情報
- データソース定義

以下の機能については、移行対象外のため、対象に応じて対応してください。

- WF連携コンテンツの連携先コンテンツ定義、ルート定義、フロー定義、ルール定義、案件プロパティ定義
「[移行ガイド](#)」に基づいて、IM-Workflowの移行を実施してください。
- アプリケーションのメニュー設定情報
IM-FormaDesigner for Accel Platformの移行後に、アプリケーションのメニュー設定画面から再登録してください。



コラム

intra-mart Accel Platform、IM-Workflowの移行に関しては、「[移行ガイド](#)」を確認してください。

ライセンスについて

IM-FormaDesigner for Accel Platform のライセンスは、移行元と同等以上のものを用意してください。

前提条件

移行にあたっての前提条件は以下の通りです。
バージョンアップ時には、各前提条件を満たすように注意してください。

バージョン

- 移行先のIM-FormaDesigner for Accel Platformの環境は、あらかじめ、「[移行ガイド](#)」に従って、アクセスセキュリティ・アカウント・ロール・IM-共通マスタ・IM-Workflowの移行が完了している状態とします。
- 移行ツールは、IM-FormaDesigner version 7.2.2以降の標準ベースの環境を、IM-FormaDesigner for Accel Platformへ移行します。



注意

標準の画面アイテムにカスタマイズを行っている場合、移行に失敗する可能性があります。
カスタマイズ内容を精査の上、以下を検討してください。

- 標準に戻し、IM-FormaDesigner for Accel Platform上で再度カスタマイズする
- 移行ツールをカスタマイズする

上記検討にあたっては、コンサルティングサービスのご利用をお奨めいたします。

データベース

- 移行前と移行後のデータベース製品は、同一にしてください。
 - 製品を変更する場合は、intra-mart Accel Platformへの移行後または移行前に、データベースの移行を行ってください。
- 移行ツールは、文字コードの変換は行いません。
 - intra-mart Accel Platformでは、データベースの文字コードはUTF-8を推奨しますが、多言語を使用しない場合は、他の文字コードでも運用可能です。
 - UTF-8以外の場合で、移行後はUTF-8に変更したい場合、事前に変換作業を行ってください。

OS

- OSの変更は可能ですが、文字コードが変わる場合、Storage Serviceからの移行に影響する場合があります。
また、移行元のIM-FormaDesigner version 7.2の文字コードがUTF-8以外の場合も、変換が必要な場合があります。
 - 添付ファイル（画面アイテムの「ファイルアップロード」、IM-Workflowの「添付ファイル」など）の場合、特に影響はありません。
 - 設定ファイルなどの場合、文字コードが変わると入出力が正しく行えないため、基本的にUTF-8への変換が必要です。

タイムゾーン

- 移行前と移行後のJVMタイムゾーンは同一とする必要があります。

ユーザモジュール

- IM-FormaDesigner version 7.2で開発したユーザプログラムを移行する場合、intra-mart Accel Platformのユーザモジュールに変換して組み込む必要があります。
 - ユーザモジュールへの変換の詳細は、「[intra-mart e Builder for Accel Platform アプリケーション開発ガイド](#)」を参照してください。
 - ユーザプログラムへの対応手順は、intra-mart Accel Platform の「[移行ガイド](#)」を参照してください。

その他の機能の前提条件

共通

IM-FormaDesigner for Accel Platform以外の機能に関する前提条件は、intra-mart Accel Platform の「[移行ガイド](#)」を参照してください。

メニュー

- version 7.2のアプリケーション作成に関するメニュー（version 7.2の標準で「Formaアプリ作成」フォルダ配下に表示するメニュー）、ア

アプリケーション実行に関するメニュー（version 7.2の標準で「Formaアプリ」フォルダ配下に表示するメニュー）がIM-FormaDesigner for Accel Platformに移行されている場合がありますが、正常に動作しない可能性がありますので、すべて削除してください。

- IM-FormaDesigner for Accel Platformのアプリケーション作成に関するメニューは、「Forma管理画面」メニューグループ配下のメニューアイテムをご利用ください。

制限事項

移行にあたっての制限事項は「[移行ガイド](#)」の通りです。

バージョンアップ時には、かならず全ての制限事項を確認してください。

- IM-FormaDesigner for Accel Platformの移行ツールでは、intra-mart Accel PlatformのUIコンポーネントを利用して画面アイテムが変更となっているため、アプリケーションの実行画面がversion 7.2と異なります。
移行を行ったIM-FormaDesigner version 7.2のアプリケーションは、「フォーム・デザイナー」画面でレイアウトを調整してください。
- データベースにMicrosoft SQL Serverを利用している場合、アプリケーションのヘッダーテーブル、明細テーブルの列のデータ型「文字列」は、「NVARCHAR」に変換します。

移行

事前作業

- intra-mart WebPlatform / AppFramework環境、バージョンに対する事前作業については、「[移行ガイド](#)」を参照してください。
- IM-FormaDesignerのバージョンが version 7.2.2 より前となる場合、最新パッチへのバージョンアップを行ってください。
- IM-FormaDesignerのバージョンが version 7.2.2 の場合、利用しているデータベースに合わせて、下記のDDLを実行してください。
DDLの実行は、移行元的环境がversion 7.2.3以降の場合には、実行する必要はありません。
- Oracle Database の場合

```
CREATE TABLE imfr_m_auto_no (
  unique_no VARCHAR2(100) NOT NULL,
  auto_no_no NUMBER(16,0) NOT NULL,
  auto_no_add_val NUMBER(10,0) NOT NULL,
  auto_no_digit_count NUMBER(2,0) NOT NULL,
  no_prefix VARCHAR2(1000),
  no_suffix VARCHAR2(1000),
  company_admin_flag VARCHAR2(1) DEFAULT '1' NOT NULL,
  version_no NUMBER(10,0) DEFAULT 1 NOT NULL,
  delete_flag VARCHAR2(1) DEFAULT '0' NOT NULL,
  create_date TIMESTAMP NOT NULL,
  create_user_cd VARCHAR2(100) NOT NULL,
  record_date TIMESTAMP NOT NULL,
  record_user_cd VARCHAR2(100) NOT NULL,
  primary key (unique_no)
);
CREATE TABLE imfr_m_auto_no_locale (
  unique_no VARCHAR2(100) NOT NULL,
  locale_id VARCHAR2(20) NOT NULL,
  auto_no_div_name VARCHAR2(1000) NOT NULL,
  create_date TIMESTAMP NOT NULL,
  create_user_cd VARCHAR2(100) NOT NULL,
  record_date TIMESTAMP NOT NULL,
  record_user_cd VARCHAR2(100) NOT NULL,
  primary key (unique_no,locale_id)
);
```

- PostgreSQLの場合

```
CREATE TABLE imfr_m_auto_no (
  unique_no VARCHAR(100) NOT NULL,
  auto_no_no DECIMAL(16,0) NOT NULL,
  auto_no_add_val DECIMAL(10,0) NOT NULL,
  auto_no_digit_count DECIMAL(2,0) NOT NULL,
  no_prefix VARCHAR(1000),
  no_suffix VARCHAR(1000),
  company_admin_flag VARCHAR(1) DEFAULT '1' NOT NULL,
  version_no DECIMAL(10,0) DEFAULT 1 NOT NULL,
  delete_flag VARCHAR(1) DEFAULT '0' NOT NULL,
  create_date TIMESTAMP NOT NULL,
  create_user_cd VARCHAR(100) NOT NULL,
  record_date TIMESTAMP NOT NULL,
  record_user_cd VARCHAR(100) NOT NULL,
  primary key (unique_no)
);
CREATE TABLE imfr_m_auto_no_locale (
  unique_no VARCHAR(100) NOT NULL,
  locale_id VARCHAR(20) NOT NULL,
  auto_no_div_name VARCHAR(1000) NOT NULL,
  create_date TIMESTAMP NOT NULL,
  create_user_cd VARCHAR(100) NOT NULL,
  record_date TIMESTAMP NOT NULL,
  record_user_cd VARCHAR(100) NOT NULL,
  primary key (unique_no,locale_id)
);
```

- Microsoft SQL Server の場合


```
CREATE TABLE imfr_m_auto_no (
  unique_no NVARCHAR(100) NOT NULL,
  auto_no_no DECIMAL(16,0) NOT NULL,
  auto_no_add_val DECIMAL(10,0) NOT NULL,
  auto_no_digit_count DECIMAL(2,0) NOT NULL,
  no_prefix NVARCHAR(1000),
  no_suffix NVARCHAR(1000),
  company_admin_flag NVARCHAR(1) DEFAULT '1' NOT NULL,
  version_no DECIMAL(10,0) DEFAULT 1 NOT NULL,
  delete_flag NVARCHAR(1) DEFAULT '0' NOT NULL,
  create_date DATETIME2 NOT NULL,
  create_user_cd NVARCHAR(100) NOT NULL,
  record_date DATETIME2 NOT NULL,
  record_user_cd NVARCHAR(100) NOT NULL,
  primary key (unique_no)
);
CREATE TABLE imfr_m_auto_no_locale (
  unique_no NVARCHAR(100) NOT NULL,
  locale_id NVARCHAR(20) NOT NULL,
  auto_no_div_name NVARCHAR(1000) NOT NULL,
  create_date DATETIME2 NOT NULL,
  create_user_cd NVARCHAR(100) NOT NULL,
  record_date DATETIME2 NOT NULL,
  record_user_cd NVARCHAR(100) NOT NULL,
  primary key (unique_no,locale_id)
);
```

ショートカットURL機能について

IM-FormaDesigner version 7.2の更新URL機能、詳細URL機能は、IM-FormaDesignerでは、「ショートカットURL」として、以下のように記述すると、登録済みのデータの参照・更新画面を表示することができます。



注意

IM-FormaDesigner version 7.2 から移行するアプリケーションの一覧画面に「ショートカットURL」を設定している場合、移行後に正しく動作しませんので、移行前には設定を解除してください。

更新画面に対するショートカットURL

アプリケーションの更新画面を直接URLを指定して表示する場合、コンテキストパスからのパスを以下のように指定することでアクセスできます。

forma/normal/view/edit_application_view/<アプリケーションID>/<データ登録ID>

参照画面に対するショートカットURL

アプリケーションの参照画面を直接URLを指定して表示する場合、コンテキストパスからのパスを以下のように指定することでアクセスできます。

forma/normal/view/refer_application_view/<アプリケーションID>/<データ登録ID>

移行手順

IM-FormaDesigner version 7.2 から情報のエクスポート

1. アプリケーション情報

1. 移行元のIM-FormaDesigner version 7.2 の環境にログインし、「アプリケーションのエクスポート」を行います。
エクスポートはアプリケーションID単位で行います。



コラム

アプリケーションに一覧画面を設定しており、ショートカットURLを追加している場合、移行後に正しく動作しませんので、移行前に設定を解除してください。

2. データソース定義（クエリ：ログイングループDBクエリ、システムDBクエリ）

1. 移行元のIM-FormaDesigner version 7.2 の環境にログインし、「データソース定義のエクスポート」を行います。
エクスポートはデータソース定義の種類（ログイングループDBクエリ、システムDBクエリ）単位で行います。

i コラム

システムDBクエリ利用時の「接続ID」については、移行対象外のため、intra-mart Accel Platform のシステム管理者画面で再設定する必要があります。

設定内容は、intra-mart WebPlatform / AppFramework にシステム管理者でログインし、必要な接続IDの登録内容を確認してください。

3. 採番ルール定義

1. 移行元のIM-FormaDesigner version 7.2 の環境にログイングループ管理者でログインし、TableMaintenance のエクスポートで下記のテーブルのエクスポートを行います。
 - imfr_m_auto_no
 - imfr_m_auto_no_locale

データベースのコピー

データベースのコピーについては、「[移行ガイド](#)」を参照してください。

IM-Jugglingによるwarの作成

i コラム

IM-FormaDesigner for Accel Platformでの移行を目的としたIM-Jugglingによるwarの作成にあたっては、「[移行ガイド](#)」「[IM-FormaDesigner セットアップガイド](#)」と合わせて、参照してください。

1. IM-Jugglingを起動し、Juggling プロジェクトを作成します。
 1. ベースモジュールより、移行後のエディションを選択します。
 2. アプリケーションより、IM-FormaDesigner for Accel Platform、移行ツールを選択します。
2. データベース、Storageの設定などについては、「[移行ガイド](#)」を参照してください。
3. IM-FormaDesigner for Accel Platformの設定ファイル類を移行します。
 1. IM-FormaDesigner for Accel Platformの設定ファイル (forma.ini/forma-config.xml)
 - version 7.2 で IM-FormaDesigner の各設定ファイルを編集している場合は、以下の移行作業を行ってください。
 1. forma.iniの設定 (IM-FormaDesigner for Accel Platformで廃止になりました。)
 - version 7.2 で IM-FormaDesigner の設定ファイル「forma.ini」を設定している場合、下記の設定を IM-FormaDesigner for Accel Platform の「forma-config.xml」に転記してください。
 - 一覧表示件数の設定
 - forma.iniの内容

```
#####

# 一覧表示件数 関連設定 (設定変更可能)
#####

# ページ内表示件数
# ... 1 ページ内に表示するデータ件数を指定します。
IMFR_PAGE_COUNT = 20
```

- forma-configでの設定場所

```
<listdisplay-setting>
<!-- ページ内表示件数 1 ページ内に表示するデータ件数を指定します。 -->
<page_count>15</page_count>
<!-- 表示件数切り替え用の件数リストをカンマ区切りで指定します。 -->
<page_pattern>15,30,45,60</page_pattern>
</listdisplay-setting>
```

- ヘッダーテーブル、明細テーブルのデータ型
 - forma.iniの内容

```
#####

# テーブル作成 関連設定（設定変更可能）
#####

# データ型 文字列
IMFR_DATA_TYPE_STRING = VARCHAR
# データ型 数値
IMFR_DATA_TYPE_NUMBER = DECIMAL
# データ型 日付
IMFR_DATA_TYPE_DATE = DATE
# データ型 タイムスタンプ
IMFR_DATA_TYPE_TIMESTAMP = TIMESTAMP
# テーブル名最大文字数
IMFR_TABLE_NAME_MAX_LENGTH = 30
# 列名最大文字数
IMFR_COLUMN_NAME_MAX_LENGTH = 30
```

- forma-configでの設定場所

```
<table-setting>
<!-- データ型 文字列 -->
<data_type_string>varchar</data_type_string>
<!-- データ型 数値 -->
<data_type_number>decimal</data_type_number>
<!-- データ型 日付 -->
<data_type_date>date</data_type_date>
<!-- データ型 タイムスタンプ -->
<data_type_timestamp>timestamp</data_type_timestamp>
<!-- データ型 バイナリ -->
<data_type_binary>bytea</data_type_binary>
<!-- テーブル名最大文字数 -->
<table_name_max_length>30</table_name_max_length>
<!-- 列名最大文字数 -->
<column_name_max_length>30</column_name_max_length>
</table-setting>
```

- データベースごとのテーブルのデータ型の設定
使用するデータベースに合わせて、forma-configの設定を変更してください。
詳しくは、[データベースごとのテーブルのデータ型の設定値一覧](#)を参照してください。
- 画面アイテムのプロパティ項目「ラベル」の最大文字数
 - forma.iniの内容

```
#####

# アイテムのラベル入力最大文字数
#####

# アイテムのラベル入力最大文字数
IMFR_ITEM_LABEL_MAX = 10000

[End of File]
```

- forma-configでの設定場所

```
<!-- アイテムのラベル入力最大文字数 -->
<item_label_max>10000</item_label_max>
```

2. forma-config.xmlの設定

- version 7.2 で IM-FormaDesigner の設定ファイル「forma-config.xml」を設定している場合の対応方法の詳細について、「[IM-FormaDesigner 作成者操作ガイド](#)」を参照してください。

4. ビルドウィザードより、war を作成します。

**注意**

「サンプル」は選択しないでください。

5. war を Web Application Server にデプロイします。

intra-mart Accel PlatformへのStorageの移行

**コラム**

Storageの移行については、「[移行ガイド](#)」を合わせて参照してください。

「[移行ガイド](#)」に基づいて、以下のように表記します。

- intra-mart WebPlatform / AppFramework のStorageのルートを [%STORAGE_72%]、ログイングループIDを [%LOGINGROUP_ID%] と表記します。
- intra-mart Accel Platform のパブリックストレージのディレクトリを [%PUBLIC_STORAGE_80%] と表記します。

1. intra-mart Accel Platform (Web Application Server) を起動します。
warが展開され、Storageディレクトリが作成されるまでお待ちください。
2. 「[移行ガイド](#)」に基づいて、Storage Serviceで利用していたファイルを移行します。
3. 移行元のIM-FormaDesigner version 7.2で画面アイテム「ファイルアップロード」を利用して登録したファイルのデータがある場合は、Storage Serviceからコピーします。
 - IM-FormaDesigner version 7.2の格納先
Storage Service ([%STORAGE_72%]/forma/fileupload/[%LOGINGROUP_ID%])
 - IM-FormaDesigner for Accel Platformの格納先
パブリックストレージ ([%PUBLIC_STORAGE_80%]/forma/fileupload)

**コラム**

IM-Workflowの案件の添付ファイルは、「[移行ガイド](#)」のStorageの移行で実施します。

システム管理者 によるテナント初期設定

1. 「[移行ガイド](#)」に基づいて、テナント環境セットアップ、各種ライセンスの登録などを行ってください。

テナント初期設定後の各種メンテナンス

項目

- 採番ルール定義のインポート
- 採番アイテム拡張に伴うテーブルデータの更新
- データソース定義（クエリ）のインポート
- アプリケーションのインポート
- スマートフォンを利用する場合

**コラム**

各種定義ファイルのインポート操作については、「Formaアプリ作成管理者」を設定したユーザ、またはテナント管理者で行います。
version 7.2環境から移行したアプリケーション、データソース定義（クエリ）については、管理会社設定が無効に設定されているため、インポート後に設定してください。

採番ルール定義のインポート

- 採番ルール定義のインポートと設定を行います。（移行元環境がIM-FormaDesigner version 7.2.3以降の場合）

TableMaintenanceの「テーブル・インポート」で、移行元環境からエクスポートした下記のテーブルのデータをインポートします。

- imfr_m_auto_no
- imfr_m_auto_no_locale
- メニューから「Forma管理画面」-「Formaアプリ作成管理」-「採番ルール定義」を開きます。
- 移行した「採番ルール定義」を編集で開きます。
- 管理会社設定を表示すると、初期値として「管理会社設定」が有効に設定されているため、必要な会社を管理会社一覧に追加する、または管理会社設定を無効にする設定をしてください。



コラム

採番ルール定義の管理会社設定については「IM-FormaDesigner 作成者操作ガイド」を参照してください。

採番アイテム拡張に伴うテーブルデータの更新

採番アイテム拡張に伴うテーブルデータの更新を行います。

1. システム管理者としてログインします。
2. メニューの「システム管理」-「データベース操作」をクリックします。
3. 利用中のテナントデータベースに、以下のSQLを記述して実行します。

```
update imfr_m_auto_no set no_prefix_type = 0;
```

データベース操作

ホーム SQLファイルインポート ログアウト

SQL実行

接続先 * ☒ テナントデータベース ☐ シェアードデータベース

実行履歴

SQL * 1 update imfr_m_auto_no set no_prefix_type = 0;

実行

4. 実行後、下記の通りに表示されれば更新完了です。

データベース操作

ホーム ログアウト

実行結果

SQL 1 update imfr_m_auto_no set no_prefix_type = 0;

接続先 テナントデータベース

データベース処理が完了しました。
処理件数:0 件

データソース定義（クエリ）のインポート

- データソース定義（クエリ）のインポートと設定を行います。
- 「Forma管理画面」→「V72データソース定義インポート」を実行します。

i コラム

移行先の環境に IM-BIS（2013 Summer以降）が導入されている場合、データソース定義のインポート後に、データソース定義画面の編集画面から更新を行ってください。

詳細は「[IM-BIS セットアップガイド](#)」-「[アップデート・パッチの適用](#)」の「バージョンによりアップデート後に必要な作業」を参照してください。

アプリケーションのインポート

- アプリケーションのインポートと設定を行います。

「Forma管理画面」→「V72アプリケーション情報インポート」を実行します。

アプリケーションのインポート後に、version 7.2からUIの変更が行われた画面アイテムを確認し、必要に応じてレイアウトの修正を行います。

参考→[IM-FormaDesigner version 7.2とIM-FormaDesigner for Accel Platformの画面アイテム比較一覧](#)

システムロケールが異なる環境間での移行について

システムロケールが異なる環境間で移行を行う場合、アプリケーションのインポートの実行後に下記の作業を実行してください。

システムロケール数が移行元より移行先が少なくなる場合

システムロケールの数が移行元より移行先が少なくなる場合には、以下の手順を実行してください。

- メニューから「Forma管理画面」→「Formaアプリ作成」→「アプリ一覧」に移動します。
- インポートしたアプリケーションの「編集」をクリックします。
- 「アプリケーション情報」をクリックします。
- 移行先のシステムロケールに合わせて、不要となるロケール分の情報を削除します。
- 以上で、移行の追加対応が完了します。

システムロケール数が移行元より移行先が多くなる場合

システムロケールの数が移行元より移行先が多くなる場合には、以下の手順を実行してください。

- メニューから「Forma管理画面」→「Formaアプリ作成」→「アプリ一覧」に移動します。
- インポートしたアプリケーションの「編集」をクリックします。
- 「アプリケーション情報」をクリックします。
- 移行先のシステムロケールに合わせて、不足しているロケール分の情報を追加します。
- 以上で、移行の追加対応が完了します。

スマートフォンを利用する場合

アプリケーション種別「IM-Workflow」で、スマートフォンを利用するためには、以下のリンク先に記載の設定作業が必要です。

- 「[IM-FormaDesigner 作成者操作ガイド](#)」-「[IM-FormaDesigner 2013 Springより前のバージョンで作成したアプリケーションをスマートフォンで利用する](#)」

付録

IM-FormaDesigner version 7.2とIM-FormaDesigner for Accel Platformの画面アイテム比較一覧

IM-FormaDesignerversion 7.2とIM-FormaDesigner for Accel Platformの画面アイテムの実行時の表示の違いをまとめた一覧です。

IM-FormaDesigner version 7.2

文字列

テキスト:

複数行文字列

テキスト:

数値

数値:

0

関数

評価値:

=1 + 2

日付

日付:

yyyy/MM/dd

期間

期間:

yyyy/MM/dd

-

yyyy/MM/dd

一覧選択

ラベル:

0

明細テーブル

明細テーブル:

列	列	列	列	+
				-

チェックボックス

チェックボックス:

☐ 項目名未定義

ラジオボタン

IM-FormaDesigner for Accel Platform

テキスト:

テキスト:

数値:

0

評価値:

=1 + 2

日付:

yyyy/MM/dd

期間:

yyyy/MM/dd

-

yyyy/MM/dd

ラベル:

0

明細テーブル:

+	列	列	列	列
1				

チェックボックス:

☐ 項目名未定義

IM-FormaDesigner version 7.2

IM-FormaDesigner for Accel Platform

ラジオボタン: ☒ 項目名未定義ラジオボタン: ☒ 項目名未定義

セレクトボックス

セレクトボックス: セレクトボックス:

リストボックス

リストボックス:

項目名未定義

リストボックス:

項目名未定義

ファイルアップロード

添付ファイル:

ファイル名	備考	更新日	+
-------	----	-----	---

添付ファイル:

ファイル名	備考	更新日	+
-------	----	-----	---

ボタン (登録)

ボタン (次へ)

ボタン (戻る)

ボタン (一覧へ戻る)

ボタン (一時保存)

ユーザ選択

ユーザ名:  ユーザ名:  

所属組織選択

所属組織選択: 所属組織選択:

組織選択

IM-FormaDesigner version 7.2

IM-FormaDesigner for Accel Platform

組織名:  組織名:  

組織＋役職選択

役職名:  役職名:  

案件情報表示

案件番号	
案件名	
申請者	
申請日	
申請基準日	

案件番号	
案件名	
申請者	
申請日	
申請基準日	

処理履歴表示

処理履歴					
処理日時	ノード名	処理	処理者	代理先	担当組織

処理履歴						
処理日時	ノード名	処理	処理者	代理先	担当組織	コメント

確認履歴表示

確認履歴			
処理日時	確認者	担当組織	コメント

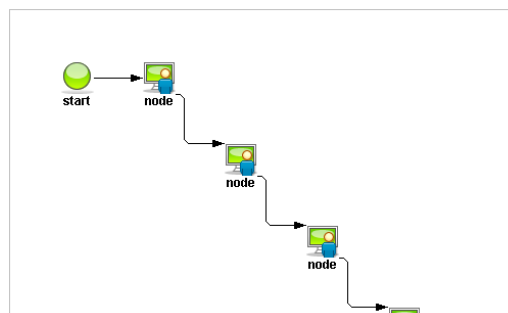
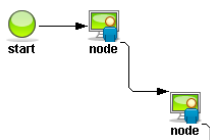
確認履歴			
処理日時	確認者	担当組織	コメント

印影表示

node1	node2	node3	node4	node5	node6

node1	node2	node3	node4	node5	node6

フロー画像表示



添付ファイル表示

添付ファイル				
添付ファイル	ファイル名	サイズ	登録者	登録日時

添付ファイル			
添付ファイル	ファイル名	サイズ	登録者

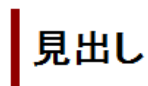
隠しパラメータ



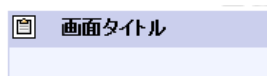
スクリプト



見出し



ヘッダー



横線



縦線



正方形/長方形



イメージ



ラベル

ラベル内容を入力してください

ラベル内容を入力してください

変更点、注意事項

- 見た目以外の画面アイテムの変更点、移行時の注意事項は以下の通りです。

- ヘッダー（タイトルバー）、見出し

フォーム上に一番最初に配置したタイトルバーのみヘッダーに変換します。
2番目以降に配置したタイトルバーは、画面アイテム「見出し」に変換します。

見出しのレベルの設定範囲をレベル1～6からレベル1～5の範囲に変更しました。

- ボタン系アイテム（「ボタン（登録）」「ボタン（次へ）」「ボタン（戻る）」「ボタン（一覧へ戻る）」）

version 7.2では、数値によるサイズ設定から、レベルによるサイズ設定へ、設定方法を変更しました。
移行後のボタンのサイズは「レベル1」を設定しています。

- 選択入力系アイテム（「日付」「期間」「一覧選択」「明細テーブル 日付」「明細テーブル 一覧選択」）

「クリアボタン配置」の設定を追加しました。
初期値は無効に設定しています。

- ファイルアップロード

複数のフォーム間で登録したファイルを利用できるように、プロパティ項目として「アイテム識別ID」を追加しました。
画像ファイルに対するプレビュー表示を利用できるように、プロパティ項目として「画像プレビュー表示」を追加しました。

- ラベル

プロパティ画面で利用しているエディタをCEditorからintra-mart Accel Platformで利用しているTinyMCEに変更しました。

- リストボックス

プロパティ項目として「フィールド幅」を設定できるようになりました。

- 明細テーブル

行のコピー、入れ替えの機能を追加しました。（「[IM-FormaDesigner リリースノート](#)」の制限事項も参照してください。）
列タイプとして、ラジオボタン、セレクトボックスが選択できるようになりました。

- 入力系アイテム全般

参照時の表示方法を変更し、参照画面でフィールドにカーソルを当てた時に、入力内容が確認できるようになりました。

- 選択系アイテム（チェックボックス、ラジオボタン）

プロパティ項目として「配置方向」を設定できるようになりました。

- 選択系アイテム（チェックボックス、ラジオボタン、リストボックス）

プロパティ項目として「初期値」を設定できるようになりました。

- 印影表示（IM-Workflowアイテム）

IM-FormaDesigner version 7.2では、申請画面でも印影の表示ができましたが、IM-FormaDesigner for Accel Platformでは、申請画面での印影表示ができなくなりました。

- 添付ファイル（IM-Workflowアイテム）

添付ファイル未登録時の表示形式が変わりました。

- IM-FormaDesigner version 7.2では、添付ファイル未登録の場合には、何も表示されません。
- IM-FormaDesigner for Accel Platformでは、添付ファイル未登録の場合には、枠のみ表示されます。

IM-FormaDesignerversion 7.2から IM-FormaDesigner for Accel Platformへの移行時のよくあるご質問（FAQ）

1. 独自に画面アイテムを作成している場合、どうすればよいですか？
intra-mart Accel Platform上で画面アイテムを作成してください。このとき、作成する画面アイテムの画面アイテムタイプは、移行元と同一のものにしてください。
2. 製品標準で提供されている画面アイテムをカスタマイズしている場合、どうすればよいですか？
intra-mart Accel Platform上で標準提供されている画面アイテムに対して、同様のカスタマイズを行った後、移行を実施してください。

